

第三国集団研修事前調査団報告書

— エジプト，稲作 —

昭和62年5月

国際協力事業団
研修事業部

研 管
J R
87-13

第三国集団研修事前調査団報告書

—エジプト，稲作—

国際協力事業団		
受入 月日	'87.7.15	405
登録 No.	16647	84.1 TAD

序 文

第三国研修とは、社会的、文化的、言語的に共通の基盤をもつ一定の開発途上地域に研修実施国を選定し、そこに当該地域内の途上国からの研修員を受入れて、より現地事情に適合した技術、知識の移転を図り、これにより、開発途上国間協力の推進に寄与することを目的としている。昭和49年度、タイのコラート養蚕研究訓練センターで初めて実施して以来、年々、第三国研修実施協力要請は増え続け、昭和61年度には16ヶ国で、33コースを実施した。

目下エジプトに於いては、アラブ海運大学校での船員教育コース及びカイロ小児病院他での看護教育コースの第三国研修が実施されている。これは、エジプト国政府自らが周辺の開発途上国を対象とした研修を実施しているようにTODCに対する積極的な姿勢にも起因する。

本第三国研修(稲作)は、昭和61年5月にエジプト国政府より三角協力の拡充という観点から、検討打診のあったもののひとつであり、その実施については同年6月にエジプト国政府より三角協力の一環としての、検討要請が正式になされた。右、要請を受け本年1月にコンタクト調査団を派遣し、その結果アフリカ地域における稲作技術の向上に資する点で、本第三国研修の意義は十分に認められることから、昭和62年4月10日から4月22日まで事前調査団を派遣した。本報告書はその結果及び協議内容を取りまとめたものである。

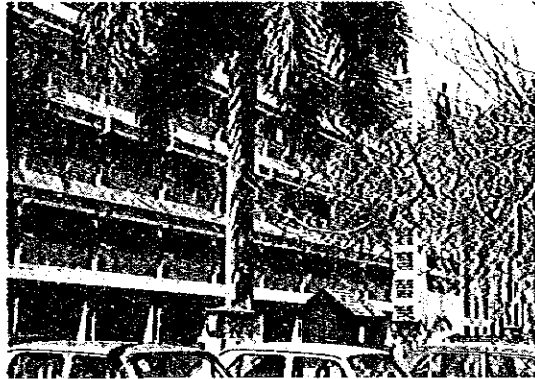
本件の実施についてご協力を賜わった外務省、農林水産省並びに在外公館に深甚な謝意を表す次第である。

昭和62年5月

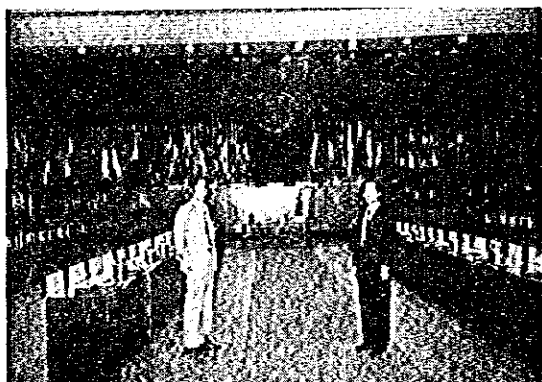
研 修 事 業 部 長



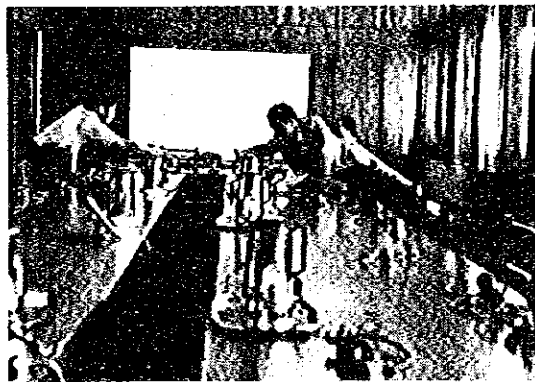
討議議事録署名・交換
 (藤野団長と農業省ファヒムEICA担当次官)



EICAの正面外観



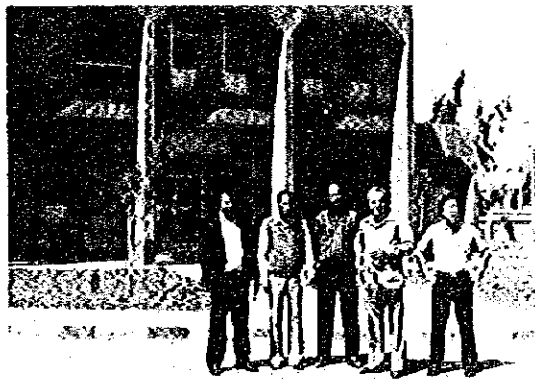
EICA付帯施設大会議場



EICAの教室
 (テーブルの上に同時通訳用のヘッドホンがみえる)



米作機械化センター正面玄関
 (スタッフ一同、内日本での研修終了者40名)



The Rice Research and Training projectの
 guest houseの前で
 (右から二人目がDr. Fawzi, Programme
 leader of Agronomy Department)

目 次

1. 事前調査団の派遣	1
1.1 派遣の経緯及び要請の背景	1
1.2 派遣の目的・成果	1
1.3 調査団の構成	2
1.4 調査日程	2
1.5 主要面会者名簿	2
2. 要請の内容	4
2.1 コース名称	4
2.2 目 的	4
2.3 到達目標	4
2.4 研修方法	4
2.5 実施する時期・期間	4
2.6 シラバス	4
2.7 割 当 国	5
2.8 応募資格	5
2.9 米作機械化プロジェクトとの関連	5
3. 第三国研修（稲作）実施関連機関	7
3.1 エジプト国際農業センター（EICA）	7
3.2 米作機械化センター（RMC）	8
3.3 The Rice Research and Training Project	9
4. 団 長 所 感	12
付 属 資 料	
1. Minutes of Meeting	15
2. アフリカ地域における稲の作付状況	27
3. EICAパンフレット	28

1 事前調査団の派遣

1.1 派遣の経緯及び要請の背景

本件第三国研修については、昭和61年5月にエジプト国外務担当国務大臣であるブトロス・ガリ氏より外務公電を通じ三角協力拡充についての検討の打診があったのが、発端となっており、その後同様に、モクタール エジプト国外務省アフリカ局次長からも、三角協力拡充についての要請があった。我方は上記要請に応じ、昭和62年1月に外務省及びJICAよりなるコンタクト調査団をエジプト国に派遣し、同調査団をして先方の優先順位及びJICA技協プロジェクトの関連性について、エジプト側関係者と協議せしめると共にその実施可能性について調査せしめた。

上記コンタクト調査団の調査の結果、「稲作コース」における第三国研修の実施が最も現実的であり、あわせてEICA (Egyptian International Center for Agriculture) が実施主体となり、実習の一部分について、JICA 技協プロジェクトである「米作機械化プロジェクト」の協力が期待できることが明確となった。

一方、JICA 技協プロジェクト関係からは、昭和62年2月にプロジェクト計画打合せ調査団が派遣され、本第三国研修に対する「米作機械化プロジェクト」の絡みについても調査が行なわれ、プロジェクト協力からの積極的な参加は困難であるが、短期間の実習等に係る協力については充分対応できる旨の感触を得た。

上記背景から、エジプト国ブトロス・ガリ外務担当国務大臣より本年2月に、稲作分野における第三国研修の新規案件の実施について正式要請がなされた(62年2月6日付在エジプト大使館発公電第138号)。

以上のような経緯から、本件に係る事前調査団が派遣された。

1.2 派遣の目的・成果

1) 目的

本年1月に派遣された第三国研修コンタクト調査団及び2月に派遣された米作機械化プロジェクト計画打合せ調査団と「エ」側関係者との協議結果を踏まえ、新規第三国研修(稲作)案件に係る研修計画の概要及び先方実施機関の研修実施体制他につき、協議・調査を行ない、この結果をMINUTESに取りまとめ署名交換する。

2) 成果

エジプト国における稲作第三国研修に係る要請の背景等について把握し、研修計画の概要及び先方実施機関の研修実施体制等について協議、調査を行ない、この結果をMINUTESに取りまとめ、エジプト側関係者と署名・交換を行なった。

1.3 調査団の構成

団長・総括	藤野利行	JICA研修事業部研修第二課長
研修計画	千田徳夫	JICA筑波国際農業センター研修室長代理
研修運営	吉田 丘	JICA研修事業部国際研修センター業務室職員

1.4 調査日程

月日	行程	調査項目
4月10日(金)	成田発	移動日
11日(土)	カイロ着	日程打合せ JICA事務所
12日(日)	カイロ	JICA事務所打合せ、大使館、外務省(アフリカ局)、農業省表敬
13日(月)	カ	農業省国際農業研修センター(EICA)との協議
14日(火)	カ	同上
15日(水)	タンタ	米作機械化センター派遣専門家との打合せ
16日(木)	カイロ	外務省文化技術協力局長表敬
17日(金)	カ	農業省関連試験研究機関視察
18日(土)	カ	同上
19日(日)	カ	農業省、外務省(アフリカ局)、大使館報告
20日(月)	カイロ発	移動日
22日(水)	成田着	

1.5 主要面会者名簿

(1) エジプト国外務省

- I) Mr. Ahmed Haggag アフリカ局局長
- II) Mr. Shashe 文化技術協力局局長

(2) エジプト国農業省(EICA)

- I) Mr. Sayed M. Faheem 副次館兼EICA所長
- II) Mr. Magdi M. Abdel Samad 次長(研修担当)
- III) Mr. Mohamed Amr Hamdi 次長(研修担当)

(3) エジプト国農業省

- I) Mr. Ml. Ml. Dessouky 国際関係担当次官
- II) Mr. Shahrighi 農業機械化研究所所長
- III) Mr. Montaz 農業機械化研究所次長

IV) Mr. Osama

稲作機械化センター所長

(4) 日本大使館

- i) 山 田 公 使
- ii) 安 村 一等書記官
- iii) 鹿 籠 一等書記官
- iv) 岩 切 二等書記官

(5) 米作機械化センター

- i) 石 原 修 二
- ii) 加 藤 富 造
- iii) 松 本 巖
- iv) 二 木 光
- v) 三 浦 喜美男

チーム・リーダー

農 業 機 械

農 業 機 械

稲 作 栽 培

業 務 調 整

(6) JICA エジプト事務所

- i) 橋 本 事務所長
- ii) 吉 崎 事務所員

2 要 請 の 内 容

2.1 コース名称

JICA エジプト事務所がEICAに働きかけ招集させた専門家会議では、Adhoc Seminar for the Improvement of Rice Cultivation in Africaとなっていたが、名称をより一般化させるため双方討議の結果、International Seminar on Rice Cultivation Techniquesとした。

2.2 目 的

初年度は当研修参加国の具体的ニーズを掌握する事を目的として4週間実施し、次年度からは初年度セミナーから得た経験を基に具体的内容を提示し3ヶ月程度の研修を実施する。

2.3 到達目標

2.2で指摘した通り、初年度のセミナー方式による研修により各参加国の稲作事情、問題点の把握、そして次年度以降は初年度セミナー方式研修により把握した問題点に基く研修という過程をとる。

2.4 研修方法

したがって初年度にはセミナー方式で対応する。具体的には参加研修員を分科会(品種、作物或は圃場管理、機械化、総合防除及び収穫後処理)の討論に参加させる事。

それに先立ち、各研修員に自国の稲作事情(面積、栽培品種、機械化の方向、種芸技術者能力等)についてCountry Reportを発表させる。

2.5 実施する時期・期間

当初予定されていた昭和63年2月実施について、エジプト側は稲生育期間中の実施を希望(4月~10月)、しかも手続き期間(約2ヶ月~4ヶ月程度あれば充分との発言もあった)を考慮しても稲生育期間中のセミナー実施が可能であるとの表明がなされたが、日本側の諸手続き(JICAカイロ事務所の会計処理の対応、JICA本部の基本的対応等)を考慮しても、具体的には、クリスマス前終了を前提にした11月中旬ないしは下旬スタートが適当であろうとの結論に達した。

2.6 シラバス

ELOAは研修の経験を有し、特に野菜・畜産・工芸作物分野の研修を1965年以降今日に至るまで実施してきた。故に当分野に関する事項についても充分経験を有していると知見された。本プログラムの概略は；

a) Registration & Orientation	10%
b) Lecture & Country Reports	33%
c) Observations	33%
d) Recommendation, Conclusion	24%

の配分で実施予定を組んでいる。この比率はEICAが実施している他のコース（畜産3ヶ月コース）の場合にも見られる事からEICAが行なう研修の方法として理解出来る。尚、当セミナーの日程、時間表等については6月～7月に日本から派遣されるであろう。調査団に間に合うように作成される事を要請した。

2.7 割 当 国

カメルーン、チャド、ガーナ、ギニアビサウ、ケニア、リベリア、マダガスカル、マラウイ、マリ、ナイジェリア、ルワンダ、セネガル、スーダン、タンザニア、ブルキナファソ、ザイール、及びザンビアの17ヶ国が掲げられた。いずれも米の生産国である。ホスト国としてのエジプトは8～10名の参加を予定している。

2.8 応 募 資 格

当初エジプト側は、各国の米(稲)生産活動に従事する職にある人を3週間程度という案を提示していた。各国のKey personが長期間その職から離れる事には問題があるだろうとの見解を示したが、結局は別添付属資料1.議事録 APPENDIX IIのTHE ATTACHED DOCUMENTの7の内容で合意した。

尚、割当国の中にはフランス語圏も入っているが、EICAには同時通訳施設(英、仏、スペイン語通訳は各国語2名ずつ可能)を有しているも現場見学や他の研修も考慮して、研修は英語で実施する事を原則とし、研修員は当然英語を解する事を前提とする。

2.9 米作機械化プロジェクト(RMC)との関連 (付属資料参照)

今迄の過程や当プロジェクトの今後の活動に支障を来たすような第三国研修の在り方には大いに疑問がある事と知見されたが、又全く無関係である姿は不自然である故、本調査団は第三国研修の実施母体がEICAである事をもう一度認識し、当プロジェクトは2～3日の現場研修の場として利用した方がよい。その理由は、1)アフリカの稲作にとっても機械化を考慮する必要がある。2)当プロジェクトの現地職員も大いに関心をもって対処する意欲をもっている。3)当面第三国研修にかかわって当プロジェクトが大きく支障を来たすとは思われない(専門家談)等を考慮して、現場研修の地として協力してもらう事とした。

一方、JICA関連技協の一環としてプロ技協と第三国研修を有機的に関連づけておくことは、

プロ技協である米作機械化プロジェクトの将来を考えた場合、何らかのプラス面が期待できるものであるとも考えられる。

3 第三国研修(稲作)実施関連機関

3.1 エジプト国際農業センター(EICA) (付属資料3.参照)

(The Egyptian International Center for Agriculture)

当センターは1965年設立以後、種々の活動の中で約100ヶ国より年間500名の研修を受入れてきた。その中でも特にOAS, FAO等の国際機関との協力により推進してきた Joint Training Courses は各分野にわたった研修を実施している。そして研修の中身は、3ヶ月コースを主体としてEICAを中心に関係機関との協議の上、実行計画立案及び研修を実施している。

したがってEICAとしては事務所、教室、Conference Room等を有し、他の研修は関連機関の協力を得て実施している。例えば家畜衛生コース、1987年版によれば下記のような内容の研修である。

即ち

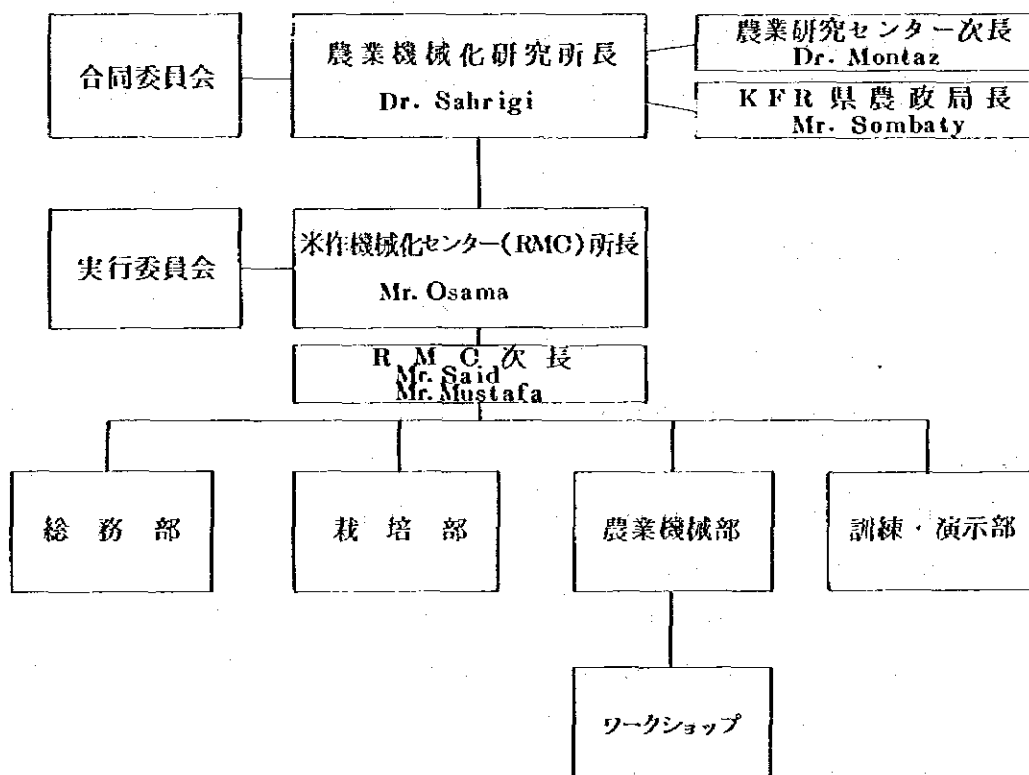
(1) Theory	General lectures	4 hrs
	Animal Diseases	28
	Production Diseases	8
	Veterinary Public Health	20
(2) Study tours		
	Cairo and Giza Governorates	7 days
	Qualulia Governorate	1
	Beni Suef Governorate	1
	Kofr EL-Sheikh Governorate	2
	Shorkia Governorate	1
	Alexandria Governorate	6
(3) Lab and Field works		
	Parasitology	7 days
	Medicine and Surgery	6
	Cynaecology and Artificial Insemination	4
	Meat Inspection	2
	Poultry Diseases	4

EICA staffによれば他の研修コース(野菜関係養鶏作物保護農林開発)とほぼ同様の方法と割合で実施しているとの事。

3.2 米作機械化センター

(1) 本センターは、エジプト政府の食糧安全保障計画の一環としての位置づけのものに品質向上、増収及び労働力不足へ対応を目的とした中小規模農業に適合する稲作機械化システムを確立することを目ざして、カフルエルシェイク県カリン町（カイロより北約80km）ミートエルディバ（3.3(1) 図1）に昭和57年度無償資金協力にて設立され、昭和56年8月18日から昭和65年3月31日までの予定でプロジェクト方式技術協力が行われている。

(2) 米作機械化センター（RMC）の組成



(3) 現有スタッフ数

RMCの機構は所長、次長及び総務、栽培、農業機械、演示・訓練の4部門に分かれている。カウンターパートはそれぞれの部門に配置され、総務に9名、栽培に10名、農機械に16名、演示・訓練に7名が発令されている。その下に Technician、Operator、Labour などの職種の40名が配置されている。

(4) 米作機械化センター（RMC）は1983年農業大臣令により、農業研究センターの中の農業機械化研究所に属することとなった。

(5) 米作機械化センターの運営管理は農業大臣の直接的指揮のもと、農業機械化研究所の所長がその任に携わっている。

3.3 The Rice Research and Training Project

(1) 位 置

図1に示した如く、日本が協力するRice Mechanization Centerより25～30kmの距離にあり、仕事の分野(第三国研修だけでなく、プロジェクトとしても)でも協力を保つ事が重要であろうと思われる。

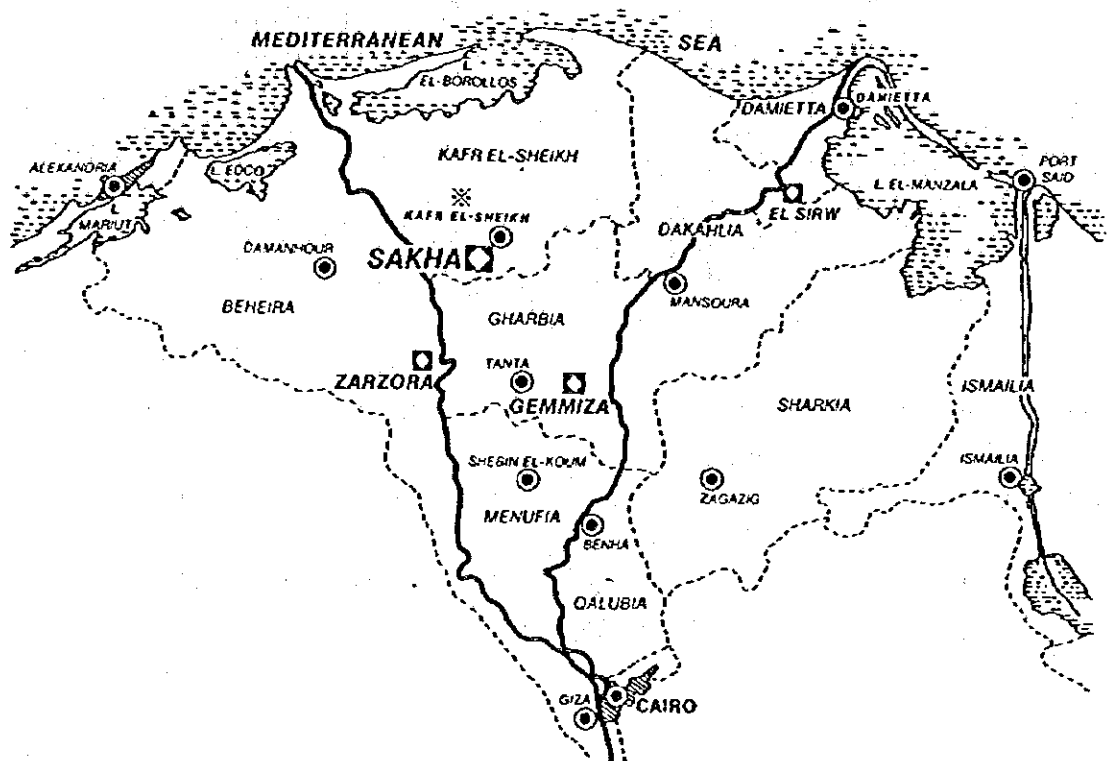


図1 米作機化センター及びRice Research and Training Projectの位置

※印は米作機化センター、□印はRice Research and Training Projectの所在地を示す

(注) 原図はManual "The Rice Research and Training Project in Egypt" による

(2) 背 景

本プロジェクトはエジプトの稲作が1950年代から1970年代にかけて約40%の増収をはたして来たが、1980年代になってからは安定した増収過程をとるには至っていない。エジプト北部はPotential Yieldは10 tons/Haであるのに現状の収量は5.5～6 tons/Haにとどまっているのは不本意である。需要に追いつくためにも又Potential Yieldに近づく為にも我々はこの機関が必要だった(案内してくれたDr. Fawzi, N. Mahrous, Program leader of Agronomy Department 談)。

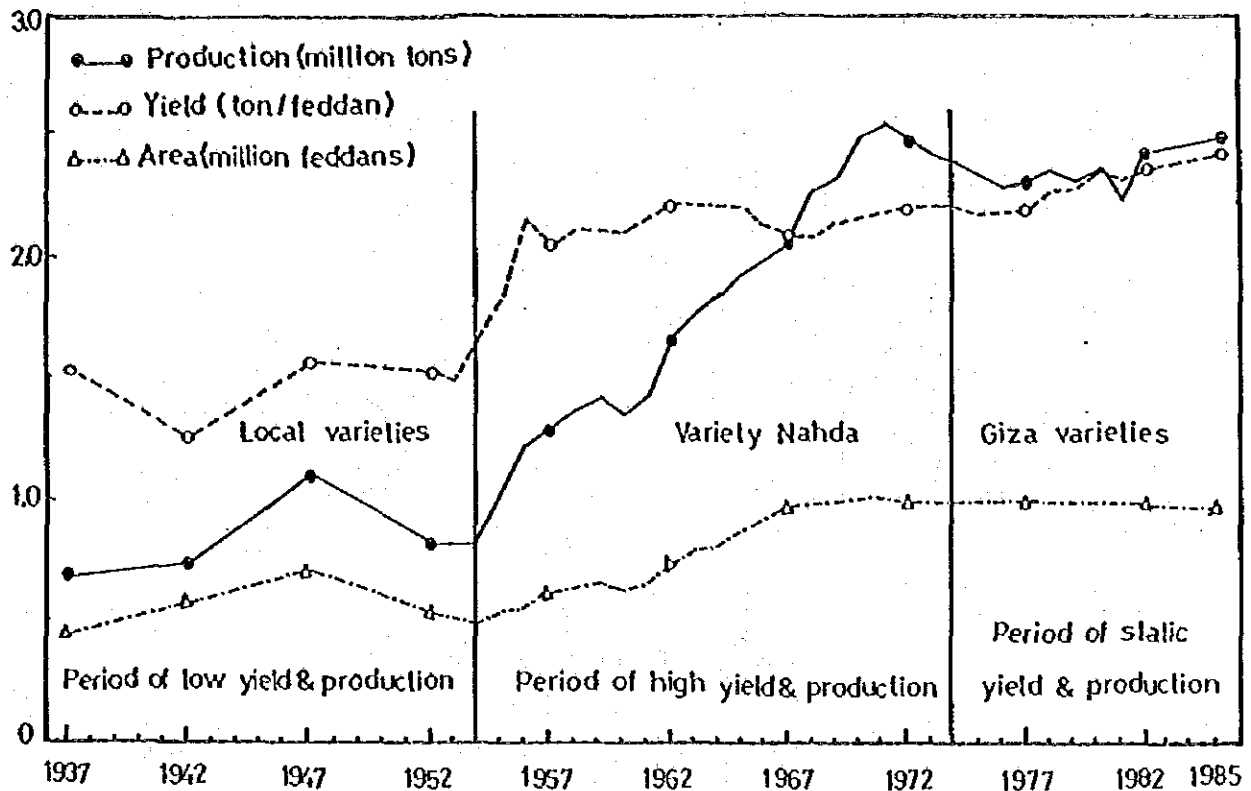


図2 Five-year moving average of rice production, area and yield in EGYPT : 1937-1985.

(注) Highlights of Recent Rice Research in Egyptより引用

(3) 組織及び予算

図3には明確でないが、実際のOperationの段階では、他の組織、University of California、University of Arkansas及びIRRI等の機関が財政的にも参画している。

1980～1985年の概要は、

- ① カリフォルニア大学 5,338,448ドル
- ② アーカンサス大学 1,120,183ドル
- ③ IRRI 1,074,299ドル となっている。

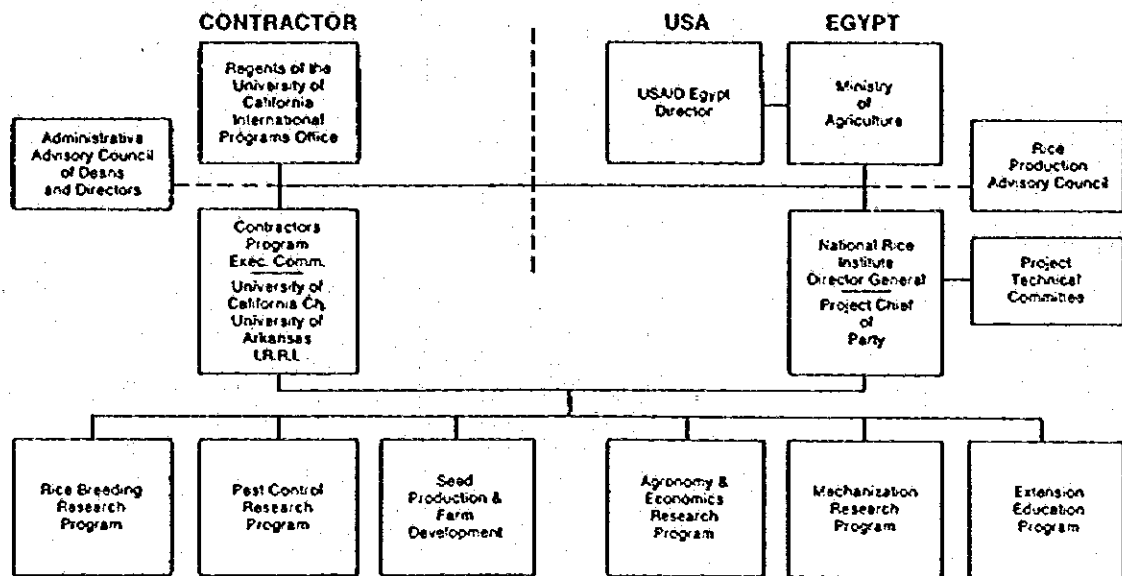


図3 The Rice Research and Training Project の組織

※ Manual 'The Rice Research and Training Project in Egypt' による。

※ 各々のProgramの下に各Lab.がある。

4 団 長 所 感

本調査団の到着前の事務所の精力的な根回しのおかげと、エジプト側をEICAの豊富な経験により、カリキュラムの詳細部分など時間的制約のため今後の検討に委ねられる部分も残されているものの、年度内実施の方向づけという目標は達成された。

年度内実施のためのEICAとの交渉と同時に、本第三国研修のエジプト外務省の窓口がどの局になるのかも実施そのものの可否を左右する大きな問題であった。

既にエジプトで行われている二つの第三国研修コースについてはアフリカ局が窓口となり、また手続的に「エ」側が新たな協定の締結を求めたものの最終的にはM/Uへの署名のみで実施に至った。しかし、今回に農業省EICAが研修実施にあたることはほぼ確実であり、EICAにこれまで外務省の文化・技術協力局を窓口として研修員の受入を行ってきたことから、今回も同局が窓口となり、ひいては手続問題として再び新たな協定の必要性が提起されるおそれがあった。

この問題を解決するため、本調査団にSHASH文化・技術協力局長を訪れ、これまでどおりの手続でないと本第三国研修の実施に不可能にならざるを得ない旨説明したところ、TSI局長にこれまでの二つの第三国研修と同じくアフリカ局が窓口になることを了承した。したがって手続面でも新たな協定を締結する問題が提起されるおそれはなくなった。

11月実施ということで時間的余裕も少ないのでR/Dミッションの派遣を早急に行う必要があることを最後につけ加えておきたい。

付 属 資 料

1. 討 議 議 事 録 (写)
2. アフリカ地域における稲の作付状況
3. エジプト国際農業センター(EICA)のパフレット

付属資料 1. 討議議事録 (写)

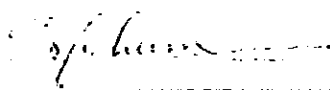
MINUTES OF MEETING BETWEEN THE JAPANESE PRELIMINARY
SURVEY TEAM AND THE AUTHORITIES CONCERNED OF THE ARAB REPUBLIC
OF EGYPT ON THE THIRD COUNTRY TRAINING PROGRAMME

1. The Japanese Preliminary Survey Team (hereinafter referred to "the Team") organized by Japan International Cooperation Agency (hereinafter referred to as "JICA") and headed by Mr. Toshiyuki FUJINO, Head of the Second Training Affairs Division, Training Affairs Department of JICA, visited the Arab Republic of Egypt from April 11, to 20, 1987 for the purpose of discussing with the authorities of the Government of Arab Republic of Egypt and Institutions concerned the training course for African countries in the field of rice cultivation techniques to be implemented under the Third Country Training Programme of JICA as "Tripartite Cooperation of Japan and Egypt to African Region".
2. The team has conducted surveys, held a series of meetings and exchanged opinions with the authorities concerned of the Government of the Arab Republic of Egypt regarding the course.
3. Through the meetings, both sides shared the view that the course will contribute to the development of rice cultivation techniques in African countries.
4. Both sides worked out the draft of the Memorandum of Understanding attached as Appendix II, and confirmed that they would make further studies in the process of completing the Memorandum of Understanding in order to ensure the successful implementation of the course.
5. A list of attendant at the meetings is attached as Appendix I.

Cairo, April 16, 1987



Mr. Toshiyuki FUJINO
Head of the Japanese
Preliminary Survey Team



Eng. El Sayed M. Faheem,
Undersecretary of State
Management Development
Ministry of Agriculture

APPENDIX I

LIST OF ATTENDENTS

Eng. El Sayed M. Faheem
Undersecretary of State
Management Development
Ministry of Agriculture

Eng. Magdi M. Abdel Samad
Dept. Director

Eng. Mohamed Amr Hamdi
Dept. Director

Mr. Toshiyuki FUJINO
Head of Second Training Division
Japan International Cooperation Agency (JICA)

Mr. Norio CHIDA
Senior Instructor of Rice Division
Tsukuba International Agricultural Training Centre
J I C A

Mr. Takashi YOSHIDA
Staff,
Office for International Training Centers
J I C A

Mr. Fumiaki YOSHIKAWA
Deputy Resident Representative,
JICA Egypt Office

Mr. Kimio MUIRA
Coordinator,
Rice Mechanization Pilot Project
Meet El-Dyba

APPENDIX II

THE MEMORANDUM OF UNDERSTANDING
OF
THE THIRD COUNTRY TRAINING PROGRAMME
(DRAFT)

The Japanese Implementation Survey Team (hereinafter referred to as "the Team"), organized by Japan International Cooperation Agency (hereinafter referred to as "JICA") and headed by _____ visited the Arab Republic of Egypt from _____ to _____ for the purpose of working out the details of the technical cooperation programme concerning the Third Country Training Programme in the field of rice cultivation techniques.

During its stay in the Arab Republic of Egypt, the Team had a series of discussions with the authorities concerned of the Government of the Arab Republic of Egypt in respect of the desirable measures to be taken by both Governments for the successful implementation of the above-mentioned programme.

As a result of the discussions, both parties agreed to recommend to their respective Governments the matters referred to in the documents attached hereto.

Cairo,

THE ATTACHED DOCUMENT

The Government of Japan and the Government of the Arab Republic of Egypt represented by Ministry of Agriculture will cooperate with each other in implementing the Third Country Training Programme (hereinafter referred to as "the Programme") in the field of rice cultivation techniques at Egyptian International Center for Agriculture (hereinafter referred to as "EICA").

The Programme will be conducted by the Government of the Arab Republic of Egypt with the support of the technical cooperation scheme of the Government of Japan. The Programme will be held once a year from the Japanese fiscal year of 1987 to that of 1991 subject to annual consultation between both Governments.

In the Japanese fiscal year of 1987, the Programme will be operated in the form of seminar and observation tour in accordance with the followings. From the second year onward the Programme will be conducted in the form of practical training course.

1. TITLE

The training seminar under the Programme will be entitled International Seminar on Rice Cultivation Techniques (hereinafter referred to as "the Seminar")

2. PURPOSE

The Seminar is designed to provide the participants from African countries with an opportunity of refreshing and upgrading relevant techniques and knowledge necessary for the rice cultivation in the respective participating countries.

3. DURATION

The Seminar will be conducted for four weeks from the end of November 1987.

4. CURRICULUM

A tentative curriculum for the Seminar is attached as in Annex II.

5. PARTICIPATING COUNTRIES

Following countries will be invited to apply for the Seminar:

Cameroon
Chad
Egypt
Ghana
Guinea-Bissau
Kenya
Liberia
Malagasy
Malawi
Mali
Nigeria
Rwanda
Senegal
Sudan
Tanzania
Upper Volta
Zaire
Zambia

6. NUMBER OF PARTICIPANTS

The number of participants from the countries specified in 5 above will be (15) in total and that from the Arab Republic of Egypt will be (8). The seats for overseas participants are not occupied by local ones.

7. QUALIFICATION OF APPLICANTS

Applicants for the Seminar are to:

- 7-1 To be nominated by their Governments in accordance with procedure mentioned in 9-1 below;
- 7-2 To be engineers or the equivalent in the field of rice cultivation who will be able to develop the knowledge and technique of rice cultivation in their own countries.
- 7-3 To be university graduates, or equivalents, who possess practical experience in service for more than three (3) years;
- 7-4 To have a good command of spoken and written English;
- 7-5 To be citizens of the nominating countries; and
- 7-6 To be healthy enough to participate in and complete the Seminar.

8. FACILITIES AND INSTITUTIONS

Egyptian International Center for Agriculture, Rice Mechanization CENTER, and other institutions of Ministry of Agriculture

9. PROCEDURE OF APPLICATION

9-1 The Government desiring to send participant(s) to the Seminar should forward five (5) copies of the designated application form for each participant to the Government of the Arab Republic of Egypt through their respective channels not later than

9-2 The Government of the Arab Republic of Egypt will inform the applying governments whether or not the nominee(s) is/are accepted to the Seminar not later than

10. MEASURES TO BE TAKEN BY BOTH GOVERNMENTS

In preparing for and implementing the Seminar both Governments will take necessary measures to undertake the following responsibilities in accordance with the laws and regulations in force in each country:

10-1 The Government of the Arab Republic of Egypt

10-1-1 Ministry of Foreign Affairs

- 1) to submit Forms A-1 for dispatch of Japanese experts mentioned in 10-2 below to the Embassy of Japan in Cairo;
- 2) to forward the General Information brochures (G.I.) of the Seminar to the governments of participating countries through its diplomatic channels;
- 3) to receive application forms and to forward them to EICA; and
- 4) to notify its selection of participants to their respective governments through diplomatic channels and to the Embassy of Japan in Cairo.

10-1-2 Ministry of Agriculture

- 1) to formulate the curriculum based on ANNEX II;
- 2) to draft and to print the General Information brochures;
- 3) to submit Form A-1 to the Ministry of Foreign Affairs of the Arab Republic of Egypt;
- 4) to assign necessary teaching staff of EICA and other related organization as lecturers/instructors for the Seminar to the maximum possible extend,
- 5) to provide training facilities and arrange accommodation for the participants;
- 6) to make available its own equipment for conducting the Seminar effectively;
- 7) to screen applications;
- 8) to open a bank account for the Seminar;
- 9) to submit to JICA Egypt office a bill of estimate for expenses to be borne by the Government of Japan;
- 10) to arrange overseas travel for participants and domestic study tour(s);

- 11) to meet and see off participants at the airport;
- 12) to take budgetary measures for the expenses necessary for implementing the Seminar that are not financed by the Government of Japan;
- 13) to issue a certificate;
- 14) to submit a Seminar Report and a statement of expenditures to JICA Egypt office in Cairo; and
- 15) to coordinate any matter related to the Seminar.

10-2 The Government of Japan

- 1) To dispatch short-term experts through the normal procedures under its technical cooperation scheme for the purpose of giving advice to EICA and lectures on such subjects as mentioned in Annex II upon the request of the Arab Republic of Egypt.
- 2) To bear the following expenses for the Seminar
 - a) Such expenses relevant to participants outside of the Arab Republic of Egypt as international economy-class flight fare, accommodation, per-diem and medical insurance premium.
 - b) Such expenses relevant to EICA for operating the Seminar as honoraria for external lecturers, meeting, teaching aids, material procurement duplications, study tour(s) and secretarial services.

11. FINANCIAL ARRANGEMENT

Financial arrangement for the training expenses to be borne by the Government of Japan through JICA will be made in accordance with the following procedures.

- 11-1 EICA will open a bank account in Cairo to accept the fund for expenses borne by JICA for the Seminar
- 11-2 EICA will submit to JICA Egypt office in Cairo a bill of estimate for expenses to be borne by JICA specifying the bank account, the name of the account holder and the name of the bank to which remittance is to be made not later than ninety (90) days before the opening of the Seminar.
- 11-3 JICA will assess the amount estimated on the bill and remit the assessed amount of expenses to the account of EICA mentioned in 11-1 above within sixty (60) days after the receipt of the bill
- 11-4 EICA will submit to JICA Egypt office in Cairo a statement of expenditures within thirty (30) days after termination of the Seminar
- 11-5 In case any amount of the fund remitted by JICA is not spent, EICA will reimburse the amount to JICA in accordance with the instructions given by JICA. The fund allocated for the flight fare, accommodation and per-diem should not be appropriated for other purposes.

11-6 EICA will make available for JICA's reference all the receipts and other documentary evidence to certify the expenditures stated in 11-4 above if requested by JICA.

12. SCHEDULE OF IMPLEMENTATION

A recommended schedule of implementation of the Seminar is attached as in Annex IV

13. The following Annexes should be considered as integral part of the Memorandum of Understanding

ANNEX I : List of Attendants
ANNEX II : Tentative Curriculum of the Seminar
ANNEX III : Schedule of Implementation
ANNEX IV : Tentative Estimate of Expenses

ANNEX II

TENTATIVE CURRICULUM OF THE SEMINAR

GROUP DIVISION: Four sub-groups to work on:
* Breeding
* Water Requirements and Fertilization
* Mechanization
* Pests and Diseases.

COUNTRY REPORT CONTENT: Cultivated Area, Varieties, Mechanization
Availability, Means of Cultivation,
Seedling and Harvesting, also Cadre and
Technicians Working in the Field and
Skilled Manpower. (Please see Attachment)

SUBJECTS FOR DISCUSSION:
* Soil, Water and Plant Relationship
* Varieties and Breeding Programme
* Pests and Diseases
* Weed Control under Rainfed Agriculture
(Aquatic Weeds).
* Harvesting and Technology Employed.

ITINERARY:
* Registration & Orientation (2 days)
* Lectures & Country Reports (7 days)
* Observation Tour (7 days)
* Recommendation & Conclusion (5 days)

ANNEX III

SCHEDULE OF SEMINAR OPERARION

Month	Egyptian Side	Japanese Side
June	<ol style="list-style-type: none"> 1. Signing of Memorandum of Understanding 2. Preparation of G.I. 3. Submission of Form A-1 	<ol style="list-style-type: none"> 1. Signing of Memorandum of Understanding 2. Recruitment of Expert
July	<ol style="list-style-type: none"> 1. Distribution of G.I. & Application Form 	
August	<ol style="list-style-type: none"> 1. Opening of Bank Account 2. Submission of Bill of Estimate 3. Receipt of Application Forms 	<ol style="list-style-type: none"> 1. Submission of Form B-1
October	<ol style="list-style-type: none"> 1. Notification of the Selection of participants 	<ol style="list-style-type: none"> 1. Remittance of Expense
November	<ol style="list-style-type: none"> 1. Implementation of Course 	<ol style="list-style-type: none"> 1. Dispatch of Expert
End of January	<ol style="list-style-type: none"> 1. Submission of Statement of Expenditure 2. Submission of Seminar Report 	

ANNEX IV

TENTATIVE ESTIMATE OF EXPENSE

ITEM OF EXPENSES	BREAKDOWN	AMOUNT (INC.)	JICA USE ONLY
I. INVITATION EXPENSES			
1. Airtickets (round trip)	see attached estimate		
2. Per-diem	X days X	pers.	
3. Accommodation	X nightX	pers.	
4. Medical Insurance Premiums	X pers		
<hr/> SUB-TOTAL <hr/>			

ITEM OF EXPENSES	BREAKDOWN	AMOUNT (INC.)	JICA USE ONLY
II. TRAINING EXPENSES			
1. Honoraria for external lecturers			
(1) Honoraria	/H X	HX	pers.
(2) Transportation overlong distance			
* Bus fare	X		pers.
2. Employment Fee			
* Secretary	X		months.
3. Transportation (study tour)			
(1) Traveling Expense			
* Bus rental	X	days	
* Per-diem	X	days X	pers
* Accommodation	X	nightX	pers
(2) Others			
4. Material Procurment			
(1) Articles of consumption			
*Material for laboratory			
* Copy paper			
(2) Meeting Expenses			
*Opening ceremony	X		pers.
*Closing ceremony	X		pers.
(3) Others			
* G.I. printing			
* Communication			
5. Textbook			
(1) Book Printing	X	books	
(2) Book Purchase	X	books	
(3) Teaching aid Purchase			
*4 OHP			
*5 Slide			
<hr/>			
SUB-TOTAL			
<hr/>			
GRAND-TOTAL			
<hr/>			

NOTE

- *1. due to prolongation of the seminar
- *2. ditto
- *3. due to increase of the premiums
- *4. to facilitate understanding of the participants with introduction of audio visual aids
- *5. ditto

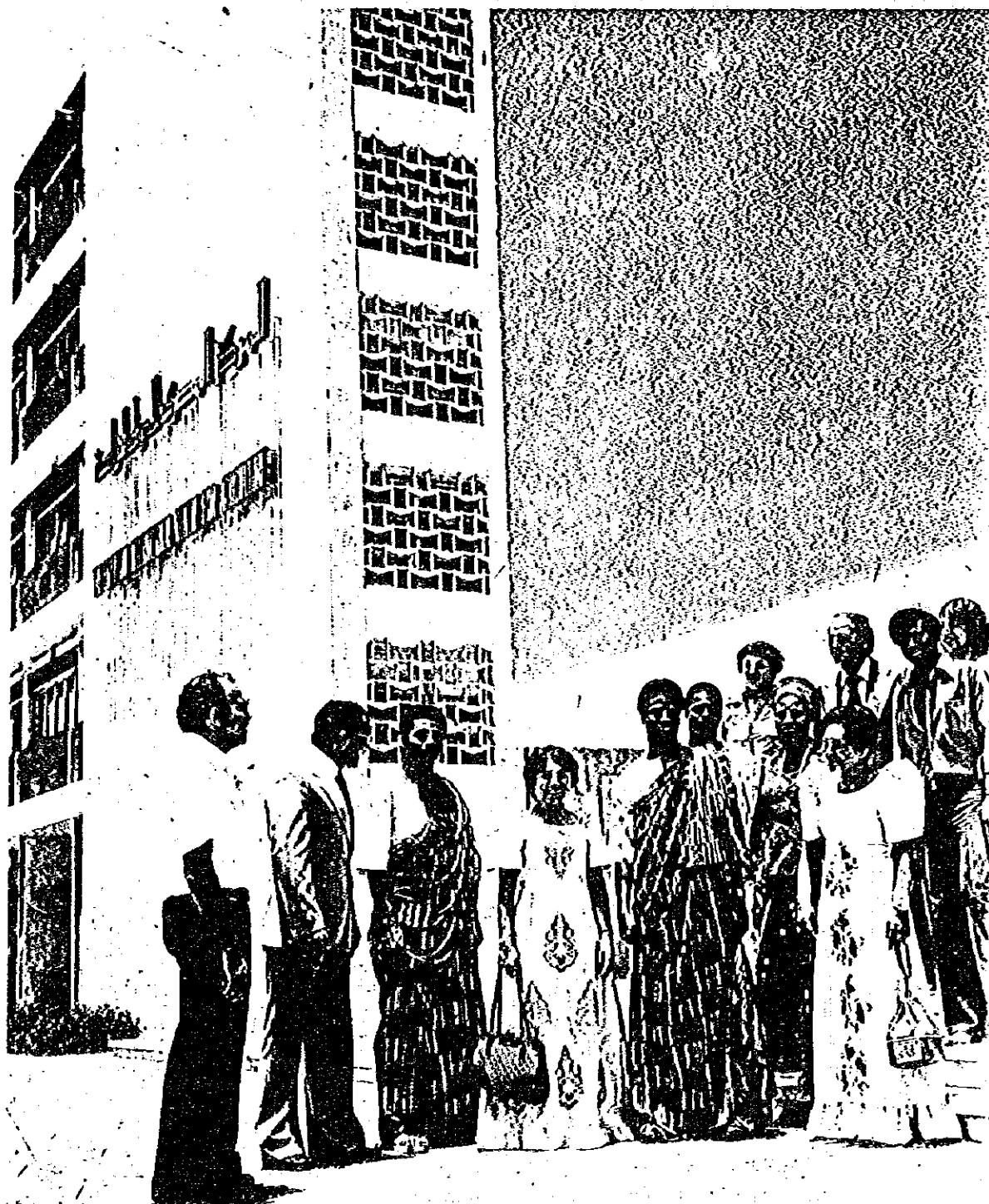
付属資料2 アフリカ地域における稲の作付状況

○ = 10,000 Ha 以下の作付面積

No	国名	作付面積	備考
1	Cameroon	20,000 Ha	
2	Chad	40,000 Ha	
3	Egypt	500,000 Ha	
4	Ghana	35,000 Ha	
5	Ghana-Bissau	158,000 Ha	
6	Kenya	7,000 Ha	○
7	Liberia	200,000 Ha	
8	Malagasy	10,000 Ha	
9	Malawi	66,000 Ha	
10	Mali	166,000 Ha	
11	Nigeria	400,000 Ha	
12	Rwanda	1,000 Ha	○
13	Senegal	60,000 Ha	
14	Sudan	3,500 Ha	○
15	Tanzania	112,000 Ha	
16	Burkinafaso	41,000 Ha	
17	Zaire	250,000 Ha	
18	Zambia	1,000 Ha	○

(注) 資料出所: Rice in Africa, Proceedings of a Conference held at the International Institute of Tropical Agriculture 1978

THE EGYPTIAN INTERNATIONAL CENTRE FOR AGRICULTURE



**Arab Republic of Egypt
Ministry Of Agriculture**



**The Egyptian International Centre
for Agriculture**

INTRODUCTION :

Experts in development and national planners in the Third World are in agreement that the agricultural sector is the key to increase prosperity and enhance standards of living for most of the citizens in the world. The developing nations have huge reservoirs of natural and human resources which have remained incompletely utilized, and which, if properly harnessed to the goals of development, can not only insure that the peoples of the world are better fed but can also enable the production of a surplus, which may serve as the basis for future industrialization.

The challenge of the future for all nations is to accomplish these goals within a relatively short period of time by increasing the pace of agricultural development. This implies that these nations have to take advantage of the entire agricultural expertise which has been developed all over the world in different environments and at various times, and to ascertain that agricultural planners, policy makers, technicians and farmers have all the relevant skills and required information at their disposal, in order to increase rapidly the productivity of their endeavours.

The task is by no means a simple one, as the progress brought about by the Green Revolution and by a greater understanding of the human factors in agricultural development is manifold and constantly growing.

As one of the very oldest agricultural societies in the world, and a nation which has carried a historic responsibility for sharing its knowledge and expertise in many fields with its sister-nations, Egypt has a special role to play in facilitating communication among the developing nations, particularly, with regard to strategies for economic development. For a long time, Egypt has provided agricultural researchers, planners and technicians to other countries wishing to benefit from Egyptian expertise in the field, considering that Egypt, cradle of civilization, has also been the birthplace of many inventions in the field of agriculture, including irrigated agriculture with all its complexity.

Since the time of the Pharaohs, nations of the Middle East and Africa have been eager to benefit from Egyptian discoveries and expertise, and Egypt has gladly assisted by sending out its experts to the four corners of the globe.

This provision of experts has continued up to the modern times, intensifying in particular in recent decades. Moreover, Egyptian Universities and Agricultural Research Institutes have always opened their doors to students from all over the world, providing them with specialized training in their respective fields. This historic commitment of sharing knowledge and skills with peoples of sisterly countries has been further extended and formalized through the establishment of the Egyptian International Centre for Agriculture, which is an agency of the Ministry of Agriculture. Its primary goal is to help speed up the pace of agricultural development in the Third World, by providing specialized training to professionals working in the agricultural sectors, in African, Asian, Caribbean and Latin American countries.

The Centre administers training programmes for some 500 participants annually. Some 100 countries from the developing and middle-income places all over the world participate in the Centre's programmes, with a view to improving the quality of life for their urban and rural population.

It is worth mentioning that the objectives of the Centre are not only to train serving agronomists from Africa, Asia and Latin America in the various fields of agriculture, but also to gather agricultural talents from our countries for a first-hand understanding and appreciation of each other's problems, and to help elaborate through the pooling of our knowledge, new techniques in agricultural development that are adapted to the conditions in our countries. Not only this, but the programmes also help foster a feeling of brotherhood amongst the agronomists from these countries.

In conducting these programmes, EICA staff has the assistance and cooperation of personnel from the Agricultural Research Centre and its affiliated Research Institutes, Ministries of Agriculture, Irrigation, Land Reclamation, Planning as well as National Research Centres, and last but not least, the Private Sector.

The Egyptian institutions have been instrumental in bringing about the modernization of Egyptian agriculture in recent decades.

Training courses are taught by leading senior agricultural specialists in Egypt, and focus on both theoretical and practical training. Practical work includes laboratory demonstration, case studies, seminars, field trips and study tours. The duration of the courses varies, depending on the topic. Participants are encouraged to share with their colleagues the experiences of their own countries in the field of agriculture, and to discuss with them and with the

specialists at the Centre the technical problems which they are encountering in their work.

The Centre publishes the lectures delivered at each course in English, French and Spanish. These lectures are distributed to the trainees at the beginning of each course, to serve as references for the subjects under study.

PROGRAMMES :

1) Regular courses :

Since its foundation in 1965, the Centre has designed and implemented annually a wide variety of regular training courses. The following table indicates the fields, periods, duration and the closing date for participation in these regular courses. Upon termination of the course, the Centre awards a certificate of achievement to active participants having attended at least 90% of the programme.

Course	Period	Duration	Closing Date
Vegetable production	15 Jan. - 15 April	3 months	15 November
Animal health	15 Jan. - 15 April	3 months	15 November
Poultry production	15 Feb. - 15 April	2 months	15 November
Cotton production &	15 Apr. - 15 July	3 months	15 February
Plant protection	15 Apr. - 15 July	3 months	15 February
Plant quarantine (O A U)	15 Apr. - 15 July	3 months	15 February
Agricultural services	15 Jul. - 15 October	3 months	15 May
Soil amelioration	15 Jul. - 15 October	3 months	15 May
Integrated rural development	19 Sep. - 15 December	3 months	15 July
1 Project analysis	15 Sep. - 15 December	3 months	15 July

2) Joint programmes offered in cooperation with international organizations:

The EICA conducts several joint training courses annually, in order to share its wealth of information and experience in the various fields of agriculture with the holders of the fellowships granted by international organizations. So far, such joint training agreements have been concluded with the OAS, and AARRO; courses are underway in cooperation with the FAO, ILO, UNESCO and other organizations.

3) Special programmes offered in cooperation with governments and governmental organizations:

In accordance with the specific training needs of various countries, the Centre conducts special training programmes of varying durations, in a number of fields related to rural development and agricultural production.

4) Orientation programme :

At the beginning of every training course, the Centre conducts a one week orientation programme to acquaint the participants with the country, the people and the economic situation in the A.R.E

The Centre also conducts such orientation programmes for agricultural experts, and delegates, at the beginning of their stay in Egypt.

Evening Arabic lessons :

EICA participants are given the chance to attend evening lessons of Arabic, where they are taught spoken Arabic. The main objective of these lessons is to enable the participants to speak and understand the language and to communicate directly in the society, in different domains and circumstances : field work, hotels, shopping areas.....etc, and also to enable them to listen to the radio, watch television, visit theatres, and share the different cultural and social activities, while in Egypt. Participants are also taught the principles of reading and writing.

Working languages :

The languages of instruction at the Centre are English, French and Spanish, which are offered through simultaneous interpretation during the lectures and/or field trips. Joint and special training programmes can be conducted in either one of the three languages, in addition to the Arabic language.

Obligations:

1) The participant's country shall :

Defray such incidental expenses, as those relating to passport, visas and vaccinations, as well as the payment of the participant's usual salary and emoluments, during his presence at the Centre.

-
- 2) The participant shall :**
- a) Ascertain from the Egyptian Embassy or Consulate in his country the particulars concerning visas exchange and health regulations in force in Egypt.
 - b) Make his own arrangements for any financial matters of private nature, which are not provided for, by his government or by the Centre.
 - c) Submit five personal photographs of passport size to the Centre, upon his arrival.
 - d) Devote his full time to the training programme and participate actively in all phases of the relevant courses.
 - e) Refrain from any activity incompatible with the programmes of the Centre and accept willingly the application of the Centre's regulations, related to all aspects of the programme and his stay.
 - f) Secure the approval of both the Authorities concerned in his country and those at the Centre, should he wish to make any change in his field of training.

Requirements for admission :

Participants should meet the following requirements :

- An agricultural education, at least B.Sc. (degree).
- Participants should preferably have three years experience in the subject matter of the course.
- Application forms should be sent through the official

channel, i.e. Egyptian Embassies, Consulates, or the nearest Egyptian representation, after having been duly filled in, no later than the closing date referred to in the list of courses.

- Nominees are requested to arrive in Cairo no later than three days before the beginning of each course.
- A candidate must be recommended by the competent Authorities of his home country.
- Applicants from both sexes are welcomed.

Fees :

The total fees amount to US \$ 2500, - covering tuition costs, full board accommodation, medical care and pocket money allowance. Payment should be made in the name of the Egyptian International Centre for Agriculture, Misr Bank, Mosatafa Kamel Branch, Account No : 14 - 00515500-5.

It is well understood that governments and international organizations are to provide their nominees with travel tickets to and from Egypt.

For further information, please write to the following address :

GENERAL DIRECTOR

THE EGYPTIAN INTERNATIONAL CENTRE
AGRICULTURE

NADI-EL-SEID STR.,

DOKKI, CAIRO, PO. BOX 239, DOKKI, EGYPT
CABLE ADDRESS: FASRURAL CAIRO
TEL :705982 - 702208

The Egyptian International Centre for Agriculture

Application Form : to be returned to : The Egyptian International Centre for
Agriculture (EICA) P.O. Box 239 CAIRO EGYPT.

Name of the Course :

Name :

Address :

Country :

Nationality :

Date of Birth :

Sex :

Marital Status :

Education and Experience :

Employment :

Name and address of organization with which you are employed :

Type of Organization :

Your Present Position :

Employed in this position since :

Name of Course Requested :

From

To

Period :

19

Language Proficiency :

	English	French	Spanish
Fair			
Good			
Excellent			

Date :

Signature :

Detach here

JICA